PART2 イギリス・フランスの展開

Chapter1　イギリスの展開

目標
19世紀，大英帝国絶頂期の王を知ろう。
イギリスで社会主義思想を大成したドイツ人２名をおさえよう。

1　イギリスの自由主義的改革

①自由主義的政治改革

1824年　団結禁止法の廃止→労働組合の結成が可能に

1828年　審査法の廃止→国教徒以外でも公職就任が可能に

1829年　カトリック教徒解放法→オコンネルらアイルランド人の努力

1832年　**第１回選挙法改正**→都市の産業資本家・中産階級などに参政権が拡大

1837年～〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕運動（～50年代）

※男子普通選挙など６カ条からなる**人民憲章**を掲げた政治運動。39年・42年・48年に議会請願運動が組織されるが，あまり成果なし。

②**自由貿易政策**→重商主義を撤回

1834年　東インド会社の中国貿易独占権の廃止

1839年　反穀物法同盟結成→コブデンやブライト

1846年　〔　　　　　　　〕**の廃止**→安価な穀物の輸入が可能に

1849年　**航海法の廃止**→イギリス・原産国の船以外でも輸送が可能に

2　社会主義思想の成立

①イギリスの〔　　　　　　　　　　〕**運動**（1811～17年）

手工業者・工場労働者たちが機械工業化に抵抗した**機械打ちこわし運動**。

②**工場法**の制定（1833年）

工場に対する国家の監督権を認め，実効力を有した。

③**空想的社会主義**→資本主義社会を批判

A　サン＝シモン（仏）→「搾取のない産業社会」を理想とする

B　**ロバート＝オーウェン（英）**→「ニューハーモニー村」という共同体建設に失敗

C　フーリエ（仏）→「ファランジュ」という共同社会を理想とする

D　プルードン（仏）→無政府主義〔アナーキズム〕

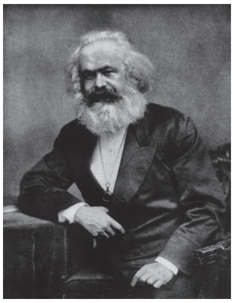
E　ルイ＝ブラン（仏）→生産の国家統制を主張

④科学的社会主義→マルクス主義〔共産主義〕

〔　　　　　　　　〕・**エンゲルス（独）**は共に

〔　　　　　　　　〕に亡命し社会革命を促す。資本主義体制の没落は歴史の必然と唱え，『**共産党宣言**』などを著す。

※「全世界のプロレタリア，団結せよ！」



マルクス

3　ヴィクトリア朝のイギリス

「**世界の**〔　　　　〕」「**世界の銀行**」たるイギリスに君臨する〔　　　　　　　　　〕**女王**の治世は「**パクス＝ブリタニカ**〔イギリスの平和〕」と呼ばれた（在位 1837～1901年）。

※ロンドン旧市街の**シティ**を中心とした，**世界市場**における**国際分業体制**〔近代世界システム〕が成立した時代。

ヴィクトリア女王

①**ロンドン**〔　　　　　　　　　〕（1851年）

②**議会制民主主義**の発展

A〔　　　　　〕（もとトーリ党）のディズレーリ内閣

B〔　　　　　〕（もとホイッグ党）のグラッドストン内閣

③さらなる選挙法の改正→選挙権の拡大

A　第２回選挙法改正（1867年）→都市労働者が選挙権を獲得

B　第３回選挙法改正（1884年）→農業労働者が選挙権を獲得

④教育法（1870年）→初等教育の公的整備始まる

⑤労働組合法（1871年）→労働組合の法的地位が認められる

⑥自由党分裂（1886年）

ジョゼフ＝チェンバレンがグラッドストン内閣のアイルランド自治法案に反対。

万国博覧会のメイン会場

まとめ　19世紀大英帝国絶頂期の王は，ヴィクトリア女王だった。
社会主義思想を大成したのは，マルクスとエンゲルスだった。

Chapter2　フランスの展開

目標
「1848年革命」の歴史的な意義は何か学ぼう。
この後，長くドイツとフランス対立の象徴となった地域をおさえよう。

1　1848年革命

産業革命により人々は古い社会的規制から徐々に解放されていったが，新たな産業社会は未成熟で「大衆貧困」と呼ばれるように格差が広がった。

①**フランス〔　　　　　〕革命**（1848年）→臨時政府による**第二共和政**の確立

A　七月王政下の抑圧的な政治

中小資本家・民衆が多額納税者のみに認められていた選挙権拡大を求める

B　革命の発生→国王ルイ＝フィリップが亡命

あ　**社会主義者**・労働者の代表も加えた臨時政府が樹立される

い　**世界史上初の男子普通選挙制**となる

② **1848年革命**の波及→「**諸国民の〔　　〕**」となり**ウィーン体制は崩壊**

1848年はヨーロッパの大転換点。産業革命で後発だった国々（フランス・プロイセンなど）でも資本主義が確立・展開し，労働運動・社会主義運動が各国で強まった。

A　オーストリア・プロイセンの**ドイツ三月革命**

あ　ウィーンの蜂起で宰相〔　　　　　　　　　　　　〕がロンドンに亡命

い　ベルリンの蜂起でプロイセン国王が譲歩して自由主義的内閣が成立

B　〔　　　　　　　　　　　　　　〕**国民議会**（1848～49年）

統一ドイツ達成と憲法制定のため自由主義者たちが結集

③王権・保守派の巻き返し→資本家は旧支配層と結び国家と産業の発展をめざす

A　フランス**第二帝政**の成立

あ　第二共和政の挫折（1848年）

※パリの労働者が六月蜂起を起こして臨時政府に鎮圧されるが，大統領選挙で**ルイ＝ナポレオン**が当選。のち「1851年クーデタ」を起こし独裁権を握る

い　国民投票が行われ，皇帝**ナポレオン〔　　〕世**と称す（1852年，**第二帝政**）

ナポレオン３世

B　プロイセン国王が保守的な内容の欽定憲法を一方的に発布（1850年）

C　オーストリアでも革命運動・民族運動は武力により鎮圧

50年代には議会も無力化され「新絶対主義」が成立

④ 1848年革命の特色と結果→西欧と東欧の方向性の分岐点に

A　西欧では自由主義・民主主義が主な目標に

B　東欧ではナショナリズム〔国民主義・民族主義〕が主な目標に

2　フランス第二帝政と第三共和政

第二帝政は，農民・資本家・労働者など，それぞれ利害を異にする勢力に支えられていた。

①ナポレオン３世の政策→国民各層の支持を巧妙に得る伯父譲りのボナパルティズム

A　国威を高めるため２度のパリ万国博覧会を開催（1855・67年）

パリの都市改造（大通りの貫通・上下水道の整備）など斬新な社会政策を実施

B　英仏通商条約を結び，自由貿易の名の下に国内産業を育成（1860年）

C　国民の人気を維持するため**積極的な対外政策**を展開

クリミア戦争（1853～56年）・アロー戦争（1856～60年）・**インドシナ出兵**（1858～67年）・イタリア統一戦争（1859年）などを行うがメキシコ出兵（1861～67年）は失敗

※幕末の江戸幕府に接近し，レセップスの**スエズ運河建設**にも協力的（1869年）。

②第二帝政の崩壊

A　**プロイセン＝フランス戦争〔普仏戦争〕**（1870～71年）

あ　ナポレオン３世がスダンで捕虜となり，パリで蜂起が起こり帝政崩壊（1870年）

い　抵抗を続けたティエールらの国防政府もプロイセン軍に降伏（1871年）

う　パリ民衆が**アルザス・ロレーヌ割譲**など屈辱的な講和条約に反対して蜂起

※独自に**パリ＝コミューン**を樹立（＝世界初の労働者などの民衆による**自治政府**）。

B　２カ月後にヴェルサイユの臨時政府が「血の週間」でパリのコミューン政府を鎮圧

〔　　　　　　　　　　〕の憲法が制定される（1875年）

まとめ

1848年革命でウィーン体制が崩壊し，東西ヨーロッパの分岐点となった。
アルザス・ロレーヌ地方は，長くフランス・ドイツの対立の象徴となった。

第 4 講　PART2　確認問題

1 1830年代後半から起こった，人民憲章を掲げた政治運動を何というか。

① ラダイト運動　② チャーティスト運動
③ タンジマート　④ ナロードニキ運動

2 産業革命の進展によって生活を脅かされた手工業者・工場労働者たちが1810年代に行った運動を何というか。

① チャーティスト運動　② タンジマート
③ ナロードニキ運動　④ ラダイト運動

3 「ニューハーモニー村」という共同体を建設しようとしたが，失敗した人物はだれか。

① ロバート＝オーウェン　② プルードン
③ ルイ＝ブラン　④ サン＝シモン

4 エンゲルスとともに科学的社会主義を唱え，『共産党宣言』を著した人物はだれか。

① フーリエ　② サン＝シモン
③ マルクス　④ プルードン

5 19世紀半ばから，「パクス＝ブリタニカ」と呼ばれた，イギリスの繁栄の絶頂期に君臨した女王はだれか。

① エリザベス１世　② エリザベス２世
③ アン女王　④ ヴィクトリア女王

6 19世紀後半に内閣を組織した保守党の党首はだれか。

① ディズレーリ ② ジョゼフ = チェンバレン
③ カニング ④ グラッドストン

7 内閣提出のアイルランド自治法案に反対した自由党所属の政治家はだれか。

① グラッドストン ② ジョゼフ = チェンバレン
③ ディズレーリ ④ カニング

8 1848年革命でウィーン体制が崩壊し，ヨーロッパの大転換点となったことを，諸国民の何というか。

① 春 ② 夏
③ 秋 ④ 冬

9 1848年のウィーンの蜂起でロンドンに亡命したのはだれか。

① メッテルニヒ ② グラッドストン
③ ディズレーリ ④ ルイ = ブラン

10 フランス第二帝政崩壊のきっかけとなった，ナポレオン 3 世がスダンで捕虜となったのはどれか。

① インドシナ出兵 ② アロー戦争
③ クリミア戦争 ④ プロイセン = フランス戦争〔普仏戦争〕

第４講　PART2　確認問題　解答

1 解答：②　　人民憲章は，男子普通選挙など６カ条からなる。

①：1810 年代，手工業者・工場労働者たちが機械工業化に抵抗した機械打ちこわし運動。
③：19 世紀前半に始まったオスマン帝国の近代化策。
④：19 世紀後半にロシアの青年知識人層がおこなった革命運動。

2 解答：④　　ラダイト運動は機械打ちこわし運動のことである。

①：1830 年代後半から起こった，人民憲章を掲げた政治運動。
②：19 世紀前半に始まったオスマン帝国の近代化策。
③：19 世紀後半にロシアの青年知識人層がおこなった革命運動。

3 解答：①　　ロバート＝オーウェンは代表的な空想的社会主義者である。

②：無政府主義〔アナーキズム〕を主張した。
③：生産の国家統制を主張した。
④：「搾取のない産業社会」を理想とした。

4 解答：③　　マルクスは，資本主義体制の没落は歴史の必然と唱えた。

①：「ファランジュ」という共同社会を理想とした空想的社会主義者。
②：「搾取のない産業社会」を理想とした空想的社会主義者。
④：無政府主義〔アナーキズム〕を主張した。

5 解答：④　「パクス＝ブリタニカ」は「イギリスの平和」という意味である。

①：16 世紀後半，イギリス・テューダー朝絶対王政全盛期に君臨した女王。
②：現在のイギリス女王。
③：18 世紀初頭の，イギリス・ステュアート朝最後の女王。

6 解答：①　保守党の前身はトーリ党である。

②：グラッドストン内閣のアイルランド自治法案に反対した自由党所属の政治家。
③：ウィーン体制時のイギリスの外相。
④：19 世紀後半に内閣を組織した自由党の党首。

7 解答：②　グラッドストン内閣と対立したジョゼフ＝チェンバレンは，自由統一党を組織したため，自由党は分裂した。

①：アイルランド自治法案を提出したイギリスの首相。
③：19 世紀後半に内閣を組織した保守党の党首。
④：ウィーン体制時のイギリスの外相。

8 解答：①　フランス二月革命のあと。

9 解答：①　メッテルニヒはオーストリアの宰相である。

②：イギリスの自由党に属する政治家で，19 世紀後半に内閣を組織した。
③：イギリスの保守党に属する政治家で，19 世紀後半に内閣を組織した。
④：フランスの社会主義者。

10 解答：④　パリで蜂起が起こり，帝政が崩壊した。

①～③：国民の人気維持のために積極的に行った対外政策の一つ。